



平成 19 年 10 月 5 日

各 位

会 社 名 森下仁丹株式会社
代表者名 代表取締役社長 駒村 純一
(コード番号 4524 東証、大証各第 2 部)
問合せ先 取締役経営企画室長 武貞 文隆
電話番号 06-6761-1131(代表)

「名古屋大学医学部とカプセル化ビフィズス菌の 経口摂取による血中尿毒症物質の低減を共同研究」

森下仁丹株式会社（駒村純一社長）は、名古屋大学医学部の丹羽利充准教授との共同研究で、腸溶性となる独自の耐酸性シームレスカプセルに包括したビフィズス菌を、人工透析を行っている人に与えることにより、血中の尿毒症物質の濃度が低下するという結果を得ました。

近年、種々の透析合併症の原因に、尿毒症物質の 1 つであるインドキシル硫酸が関与していることが明らかになり、その低減方法が研究されています。今回の研究結果は、医薬品に頼らない尿毒症物質の低減方法として、腸溶性のビフィズス菌製剤が大いに期待されるものです。

一般に、ビフィズス菌製剤を摂る事で便秘が改善される事が知られていますが、血中の尿毒症物質の低下が確認された事は初めてであり、森下仁丹では名古屋大学とこの成果を共同で特許出願するとともに、学術論文を通じて研究成果を発表いたしました。

森下仁丹は既にシームレスカプセルを使った医薬品および健康食品を製造販売しておりますが、この研究で用いたビフィズス菌カプセルは、特に Na, K, Ca 等の含量の少ないカプセル皮膜素材を用い、透析している人も使用しやすいビフィズス菌製剤であることが特徴です。

腎不全で透析に至るまでには、尿毒症物質の低減に対して使用可能な医薬品が存在しますが、透析中に使用できる医薬品はないため、この腸溶性ビフィズス菌のサプリメントは、長期間透析をしている患者には大きな朗報であり、今回の研究成果を基軸にさらなる研究と将来的な医薬品化への展開を検討していく予定です。

森下仁丹では、30年以上にわたって培ってきたシームレスカプセル化技術の中でも腸溶性となる耐酸性カプセルの新しい応用分野と位置付けると同時に、既に公表している工業用バイオカプセルや経口ワクチンカプセルなども併せシームレスカプセルの商品開発に積極的に取り組み、中長期に亘る業績の向上と企業価値の拡大を目指してまいります。

以上